

# 放射線災害医療学分野

## 論文

### A 欧文

A-a

- 1 . Kumazawa T, Mori Y, Sato H, Permata TBM, Uchihara Y, Noda SE, Okada K, Kakoti S, Suzuki K, Ikota H, Yokoo H, Gondhowiardjo S, Nakano T, Ohno T, Shibata A: Expression of non-homologous end joining factor, Ku80, is negatively correlated with PD-L1 expression in cancer cells after X-ray irradiation. *Oncol Lett* 23(1): 29,2022. doi: 10.3892/ol.2021.13147. (IF: 2.9)
- 2 . Suzuki K, Kawamura K, Ujiie R, Nakayama T, Mitsutake N: Characterization of radiation-induced micronuclei associated with premature senescence, and their selective removal by senolytic drug, ABT-263. *Mutat Res Genet Toxicol Environ Mutagen* 876-877: 503448,2022. doi: 10.1016/j.mrgentox.2022.503448. (IF: 1.9)
- 3 . Zurnadzhy L, Bogdanova T, Rogounovitch TI, Ito M, Tronko M, Yamashita S, Mitsutake N, Bolgov M, Chernyshov S, Masiuk S, Saenko VA: Clinicopathological Implications of the BRAF (V600E) Mutation in Papillary Thyroid Carcinoma of Ukrainian Patients Exposed to the Chernobyl Radiation in Childhood: A Study for 30 Years After the Accident. *Front Med (Lausanne)* 9: 882727,2022. doi: 10.3389/fmed.2022.882727. (IF: 3.9)
- 4 . Satoh H, Ochi S, Mizuno K, Saga Y, Ujita S, Toyoda M, Nishiyama Y, Tada K, Matsushita Y, Deguchi Y, Suzuki K, Tanaka Y, Ueda H, Inaba T, Hosoi Y, Morita A, Aoki S: Design, synthesis and biological evaluation of 2-pyrrolone derivatives as radioprotectors. *Bioorg Med Chem* 67: 116764,2022. doi: 10.1016/j.bmc.2022.116764. (IF: 3.5)
- 5 . Imamura Y, Suzuki K, Saijo H, Tanaka K: Longitudinal physiological remoulding of lower limb skin as a cause of diabetic foot ulcer: a histopathological examination. *J Wound Care* 31(Sup8): s29-s35,2022. doi: 10.12968/jowc.2022.31.Sup8.S29. (IF: 1.9)
- 6 . Bogdanova T, Chernyshov S, Zurnadzhy L, Rogounovitch TI, Mitsutake N, Tronko M, Ito M, Bolgov M, Masiuk S, Yamashita S, Saenko VA: The high degree of similarity in histopathological and clinical characteristics between radiogenic and sporadic papillary thyroid microcarcinomas in young patients. *Front Endocrinol (Lausanne)* 13: 970682,2022. doi: 10.3389/fendo.2022.970682. (IF: 5.2)
- 7 . Tanaka K, Suzuki K, Miyashita K, Wakasa K, Kawano M, Nakatsu Y, Tsumura H, Yoshida MA, Oda S: Activation of recombinational repair in Ewing sarcoma cells carrying EWS-FLI1 fusion gene by chromosome translocation. *Sci Rep* 12(1): 14764,2022. doi: 10.1038/s41598-022-19164-x. (IF: 4.6)
- 8 . Senju C, Nakazawa Y, Shimada M, Iwata D, Matsuse M, Tanaka K, Miyazaki Y, Moriwaki S, Mitsutake N, Ogi T: Aicardi-Goutières syndrome with SAMHD1 deficiency can be diagnosed by unscheduled DNA synthesis test. *Front Pediatr* 10: 1048002,2022. doi: 10.3389/fped.2022.1048002. (IF: 2.6)
- 9 . Bogdanova T, Chernyshov S, Zurnadzhy L, Rogounovitch TI, Mitsutake N, Tronko M, Ito M, Bolgov M, Masiuk S, Yamashita S, Saenko VA: The relationship of the clinicopathological characteristics and treatment results of post-Chornobyl papillary thyroid microcarcinomas with the latency period and radiation exposure. *Front Endocrinol (Lausanne)* 13: 1078258,2022. doi: 10.3389/fendo.2022.1078258. (IF: 5.2)

### B 邦文

B-b

- 1 . 光武範吏：甲状腺癌の遺伝子変異と特徴. *Medical Practice* 39(1): 93-96, 2022.
- 2 . 光武範吏：これからの原爆後障害研究：これからの甲状腺癌研究. *広島医学* 75(4): 184-187, 2022.
- 3 . 鈴木啓司：特集 DNA修復による生体恒常性の維持 III.生体恒常性維持におけるDNA損傷応答 DNA損傷応答とゲノム恒常性維持. *生体の科学* 73(2): 148-153, 2022.
- 4 . 光武範吏：甲状腺乳頭がん. *糖尿病・内分泌代謝科* 55(1): 25-29, 2022.
- 5 . 光武範吏：術後分子生物学的予後因子. *日本内分泌外科学会雑誌* 39(3): 190-193, 2022.
- 6 . 光武範吏：小児・若年者甲状腺癌の遺伝子解析. *日本臨床内科医会誌* 37(2): 165-168, 2022.
- 7 . 鈴木啓司, 河村香寿美：放射線照射による発がん遺伝子変異シグネチャー. *放射線生物研究会機関誌* 57(3): 202-227, 2022.

## 学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	0	3	2	2	8

## 社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
光武範吏・教授	編集委員	Endocrine Journal
光武範吏・教授	国際編集委員	Arquivos Brasileiros de Endocrinologia e Metabologia
光武範吏・教授	理事	日本甲状腺学会
光武範吏・教授	評議員	日本甲状腺学会
光武範吏・教授	評議員	日本内分泌学会
光武範吏・教授	科学研究費委員会専門委員	独立行政法人 日本学術振興会
光武範吏・教授	NASHIM運営部会委員	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
光武範吏・教授	スーパーサイエンスハイスクール事業に係る運営指導委員	長崎県教育委員会（長崎県立長崎西高等学校）
鈴木啓司・准教授	評議員	日本放射線影響学会
鈴木啓司・准教授	編集委員	日本放射線影響学会
鈴木啓司・准教授	評議員	日本癌学会
鈴木啓司・准教授	「放射線と健康」アドバイザーグループアドバイザー	福島県
鈴木啓司・准教授	低線量率放射線による生物影響に関する調査の修飾要因の解析評価委員会委員	公益財団法人 環境科学技術研究所
鈴木啓司・准教授	線量評価部会委員	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 基幹高度被ばく医療支援センター
鈴木啓司・准教授	動物実験線量率効果検討ワーキンググループ委員	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門放射線医学研究所
鈴木啓司・准教授	放射線リスク・防護研究基盤運営委員会委員	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門放射線医学研究所
鈴木啓司・准教授	専門調査員	文部科学省 科学技術・学術政策研究所
鈴木啓司・准教授	放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（日本語版）の改訂に関する検討委員会委員	(株)エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ（環境省事業）

## 競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元/共同研究先	代表・分担	研究題目
光武範吏・教授	日本学術振興会	代表	国際共同研究強化(B) チェルノブイリ放射線誘発甲状腺がんの遺伝子バンク設立と分子遺伝疫学国際共同研究
光武範吏・教授	日本学術振興会	代表	挑戦的研究(萌芽) ロングリード配列決定法による放射線被ばく刻印の同定
光武範吏・教授	日本学術振興会	代表	挑戦的研究(萌芽) 細胞腫によって放射線被ばく刻印は異なるのか？
光武範吏・教授	環境省	代表	放射線の健康影響に係る研究調査事業 ロングリード解析を用いた放射線刻印の同定と福島小児甲状腺癌への応用
光武範吏・教授	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	分担	難治性疾患実用化研究事業 ゲノム不安定性疾患群を中心とした希少難治性疾患の次世代マルチオミクス診断拠点構築
光武範吏・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(A) 環境ストレス応答・ゲノム修復システムの破綻により発症する疾患の病態解明

光武範吏・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 放射線誘発甲状腺癌の発症リスクを高める 遺伝的素因はあるのか？
鈴木啓司・准教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) scRNA-Seq解析による放射線誘発ゲノム不安 定性のトランスクリプトーム解析
鈴木啓司・准教授	環境省	代表	原子力災害影響調査等事業 ゲノム変異シグネチャー解析で紐解く低線 量放射線の発がん寄与割合とメカニズム
鈴木啓司・准教授	環境省	代表	原子力災害影響調査等事業 メチル化シグネチャー解析による放射線の 発がん寄与割合評価
鈴木啓司・准教授	長崎大学原爆後障害医療研究所	代表	研究費 組織反応を基軸とした放射線発がん初期イ ベントの解明
鈴木啓司・准教授	国立研究開発法人日本医療研究 開発機構	分担	難治性疾患実用化研究事業 多発性嚢胞腎に対する新規治療剤の探索
松瀬美智子・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 甲状腺乳頭癌における放射線ヨウ素治療抵 抗性メカニズムの解明
松瀬美智子・助教	長崎大学原爆後障害医療研究所	代表	研究費 甲状腺乳頭癌の悪性度・予後を決定する分 子マーカー及び、微小癌の手術適応を推定 できる分子マーカーの検索
ログノビッチ タチ アナ・特任研究員	長崎大学原爆後障害医療研究所	代表	研究費 CRISPR/Cas9-mediated promoter activity tagging for detection of thyroid cancer-specific oncogene activation in single cell
河村香寿美・特任研 究員	長崎大学原爆後障害医療研究所	代表	研究費 放射線照射HAP1細胞

## 特 許

氏名・職	特 許 権 名 称	出願年月日	取得年月日	番号
光武範吏・教授	TERTプロモーター変異を検出する プローブセット	2020年3月5日	出願中	特願2020-037365
松瀬美智子・助教	TERTプロモーター変異を検出する プローブセット	2020年3月5日	出願中	特願2020-037365

## その他

### 非常勤講師

氏名・職	職 (担当科目)	関 係 機 関 名
鈴木啓司・准教授	非常勤講師 (生物学・特殊分析検査学)	九州医学技術専門学校
鈴木啓司・准教授	非常勤講師 (量子線治療科学論)	九州大学大学院医学系学府